

第1学年 国語科 年間指導計画・評価計画

△知技 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
4	3	なかよしの き	□挿絵を見ながら気づいたことを話し、話を想像しながら物語を楽しむとともに、国語学習への関心や意欲をもつ。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	1 2 3	1. 挿絵をもとに話を想像し、気づいたことを話し合う。 *季節はいつか。 *どんな場所か。 *どんな動物がいるか。 *どんなお話からあらすじを話し合う。 2. (→)・(□)・(○)の場面から想像したことを話し合う。 (1) 場面を比べて気づいたこと話し合う。 (2) 声に出して読む。 (3) 「あ」や「あれ」の後に続く言葉を考える。 3. このお話で一番おもしろいところはどこか、話し合う。 (1) (○)の場面を見て、自分なら「なかよしのき」でどんなふう遊びたいか考えて話し合う。 (2) 一番おもしろいと思った訳が言えたら発表する。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声に注意して話している。(〔知識および技能〕(1)イ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を話し合おうとしている。
4	2 (話す聞く2)	たのしい いちにち	◇学校生活のさまざまな場面の挿絵をもとに、挨拶の言葉を考え、場面に合わせた挨拶ができるようにする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア ☆道徳：B 礼儀 気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。	1 2	1. 挿絵では、みんなが笑顔である事に着目し、楽しい一日を送るのに大切なことを考える。 (1) 朝の登校の絵から挨拶の様子を話し合う。 *誰と挨拶しているか。 *何を言っているか。 (2) 自分の挨拶はどうか、振り返る。 (3) 挨拶の練習をする。 2. 挿絵をもとに、学校生活のさまざまな場面での挨拶や言葉のかけ方を練習する。 *教室で教師に「はい」と返事をするとき。 *地域のかたがいらしたとき。 *職員室に入るとき。 *給食をいただくとき。 *謝るとき。 *帽子を拾ってもらったとき。 *さよならするとき。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって挨拶をしようとしている。
4	2 (話す聞く2)	わたしの なまえ	◇自己紹介の場面の挿絵をもとに、話し方や聞き方について話し合い、言語生活を広げる。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア ☆道徳・特別活動：自己紹介をし、みんなに自分のことを知ってもらう。	1 2	1. P10・11を見て、学習のねらいと流れを知る。自分の名前をカードに書き、自分の名前を友達に知らせる。 (1) 自分の名前をカードに書く。好きな絵を描き足す。 (2) 隣の人と名前カードを見せながら紹介し合う。 2. 紹介の仕方がわかり、学級のいろいろな人とすんで名前を紹介し合う。 (1) 座ったままで、前後・左右の友だちと紹介し合う。 (2) 席を離れて、自分から相手を見つけて紹介し合う。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって名前を紹介し合おうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
4	2	おはなし たくさん ききた いな	△さまざまな本の読み聞かせをとおして、読書への関心を高める。 △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1 2	1. 教科書の挿絵を見て、知っている本について話し合う。 2. 絵本の読み聞かせを聞く。 3. 絵本の読み聞かせを聞き、好きな場面について、簡単な感想を発表する。	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(〔知識及び技能〕(3)エ) 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって感想を発表しようとしている。
4	1 (話す聞く 1)	こえの おおきさ どれくら い	◇挿絵をもとに、場面に応じた話し声の大きさを意識する。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	1	1. 教科書の挿絵からどういう場面か、声の大きさはどれくらいがよいか、話し合う。 2. 実際に声の大きさを考えてやってみる。 *授業中、校内の廊下を歩くとき。 *隣の人と話し合うとき。 *学級で話し合うとき。 *校庭で遠くの友達を呼ぶとき。	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって話そうとしている。
	3	かいて みよう	△正しい鉛筆の持ち方、正しい姿勢に気をつけて線をなぞったり文字を書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。 ⇒知技(3)ウ(7)	1 2・3	1. 文字を書くときの正しい姿勢と鉛筆の持ち方を知る。 (1) 挿絵や写真を見て正しい鉛筆の持ち方、正しい姿勢に気をつけて、線をなぞる。 (2) 姿勢と持ち方に気をつけて、運筆練習をする。提出されている線をなぞって書く。 2. 提出されている言葉を読んだり、挿絵と言葉に対応させたりして平仮名を練習する。 (1) P18の平仮名を書く。 *教師が書くのを見る。 *教師と一緒に空で書く。 *教科書をなぞる→ワークシート→ノート。 (2) P19の平仮名を練習し、組み合わせを変えて他の言葉も書く。	◎【知識・技能】平仮名を読み、書いている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) 【態度】進んで平仮名を読んだり書いたりし、学習課題にそって言葉を書こうとしている。
4	1 (話す聞く 1)	こえを あわせて あいうえ お	◇「こえを あわせて あいうえお」を、姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意してはっきりした発音で読む。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	1	1. 「こえを あわせて あいうえお」を、教師の後ろについて音読する。 2. 「こえを あわせて あいうえお」を音読し、リズムのよさや声を合わせる楽しさを味わう。	【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって音読しようとしている。
5	1	あいうえお	△母音や簡単な平仮名の読み方、書き方を理解する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ	1	1. 挿絵を参考にしながら、「あいうえお」で始まる言葉を見つけ、声に出して読む。 2. 姿勢・鉛筆の持ち方に気をつけて、平仮名を丁寧に書く。	◎【知識・技能】音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって声に出して読もうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
5	3 (話す聞く 3)	みつけて はなそう、たのしく きこう	◇挿絵から見つけた話題にそって話し、相手の話題に対して、簡単なことを尋ねたり、応答したりする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 → ◎知技(1)ア ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝えるために必要な事柄を選ぶこと。 → 思判表A(1)ア ◇互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 → ◎思判表A(1)オ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 → 思判表A(2)イ	1 2 3	1. 挿絵を見て、誰がいるか、どんなことをしているかなどを話し合う。 2. 挿絵から話題を見つけて話したり、話を聞いて尋ねたりする。 3. 組みになったり、二人の組み合わせを変えたりして、いろいろな話題で話し合う。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。 (〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ) 【態度】積極的に互いの話に関心をもち、学習の見通しをもって尋ねたり応答したりしようとしている。
	2 (書く1)	かき、かぎ	△清音と濁音、半濁音の違いを理解して、正しく読んだり書いたりし、主語と述語の関係や文の終わりに句点がつくことを理解し、正しく文を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 → ◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 → 知技(1)カ ■語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 → 思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 → 思判表B(2)ウ	4 5	4. 挿絵と言葉を対応させながら、清音・濁音・半濁音の言葉を声に出して読む。 (1) 書き順に気をつけながら新出文字を書く。 (2) 濁点の書き方を理解する。 5. 主語・述語に気をつけて、文を書き、文の終わりに句点(。)をつける。 (1) P27の「やぎがいる。」をなぞる。 (2) 主語と述語を考えて簡単な文を作る。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)ウ) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に濁音・半濁音の表記、句点の打ち方を理解し、学習課題に沿って簡単な文を書こうとしている。
	2	ことばを あつめよう	△言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、つながる言葉を考えて読んだり、書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 → 知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。 → ◎知技(1)オ	6・7	6. 挿絵を見ながら、提示された言葉を読む。 ・書き順に気をつけながら新出文字を練習する。 7. 新出の平仮名の書き方を理解し、正しく書く。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにしている。 (〔知識及び技能〕(1)オ) 【態度】進んで身近なことを表す語句の量を増やし、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
5	3	くまさんと ありさんの あいさつ	□登場人物の様子を考えながら、楽しく音読する。 △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 →知技(1)キ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 →◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 →◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 →思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ	1	1. 短いお話の概要をつかんで、楽しく音読する。 (1) 挿絵を参考にしながら、誰が出てくるか、どんな様子かの大体をつかむ。 (2) 教師の範読を聞き、お話の概要を知る。 (3) 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読する。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を伝えようとしている。
				2	2. 登場人物の様子を想像しながら、工夫して音読する。 (1) どんな「くまさん」と「ありさん」か、想像したことを発表する。 (2) 「くまさん」と「ありさん」の言葉を確認め、それぞれどのように読むとよいかを話し合い、声の大きさや読む速さを工夫して音読する。	
				3	3. 音読を発表したり、友達の音読を聞いたりして、音読を楽しむ。 (1) さまざまな形態で音読を楽しむ。 (2) 友達の音読に興味をもって聞く。	
	2 (書く1)	ねこ、ねっこ	△促音の読み方と書き方を理解し、句読点の使い方を理解する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 →知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 →◎知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 →知技(1)キ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 →思判表B(2)ウ	4	4. 挿絵を見ながら、促音のついた言葉とつかない言葉を、読んだり書いたりする。 (1) 手拍子を打ちながら、音節を意識して音読する。 (2) 促音の表記の仕方を知り、ノートやワークシートに書く。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） 【態度】積極的に促音の表記、読点の使い方を理解し、学習課題に沿って簡単な文を書こうとしている。
				5	5. 助詞「は」の使い方、読点（、）や句点（。）の書き方に気を付けて文を視写する。挿絵を参考に、簡単な敬体の文を考える。 ・考えた文「〇〇は、～しました。」をノートに書く。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
5	3	ほんを よもう	△読みたい本を探して読んだり、読んだ本について友達や先生に話したりして、読書を広げる。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒知技(3)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1 2・3	1. 教科書に紹介されている絵本の表紙や題名を参考に読みたい本を選び、読み聞かせを聞いたり、自分で読んだりする。 2. いろいろな本を読み、おもしろかったところを友達と伝え合う。	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ） 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって感想を伝え合おうとしている。
	2 (書く1)	ことばを つなごう	△言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、つながる言葉を考えて読んだり、書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	4・5	4. 挿絵を見ながら、提示された言葉を読み、空欄にどんな文字が入れば言葉がつながるかを考える。 5. 新出の平仮名の書き方を理解し、正しく書く。 (1) 新出平仮名の練習をする。 (2) 「を」の読み方や使い方を知り、「○○ を～。」の文を考えて書く。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） 【態度】進んで身近なことを表す語句の量を増し、学習課題に沿って読んだり書いたりしようとしている。
5	1	たのしく よもう 1 あいうえおの うた	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク	1	1. 言葉のまとまりや意味を考えたり、リズムをつかんだりして、『あいうえおの うた』を楽しく音読する。 2. 一人で読む、斉読する、交代で読むなど、さまざまな形態で音読を楽しむ。 3. 『あいうえおの うた』を視写する。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。
	1	ごじゅうおん	△五十音表を見て、これまでに学んだ平仮名の学習を振り返るとともに、五十音表の基本的な特徴に気づく。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ	2	4. 五十音表を見て、平仮名を縦に音読したり、横に音読したりする。 5. 書きにくい平仮名や、まちがえやすい平仮名を取り上げて練習する。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記の仕方を理解して文や文章の中で使っている。また、また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に平仮名を読み、今までの学習を生かして五十音表の特徴に気づこうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
5～6	5	けむりの きしや	□文章と挿絵を結びつけながら、場面の様子について人物の行動を中心に想像を広げながら読む。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	1 2 3 4 5	1. 挿絵を見ながら全文を読み、感想を話し合う。 2. お話のあらすじをつかみ、各場面の挿絵をもとに、あらすじを説明する。 3. おじいさんの人柄を考える。 *どんな仕事をしているか *どんな性格の人物か *まきを燃やしたのはなぜか 4. 空へ上っていくなればしと、それを見ているおじいさんの、それぞれの言葉を想像する。 5. 人物に手紙を書き、お互いに読み合う。 *おじいさんに *ながればしに *二人に（書きたい相手を選ぶ）	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって登場人物に手紙を書こうとしている。
	2	のぼす おん	△長音の読み方と書き方を理解する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ	6 7	6. 長音の読み方や書き方を理解し、長音の入ったいろいろな言葉を、読んだり書いたりする。 7. P51の長音の入った詩をリズムよく読んだり、視写したり聴写したりする。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に長音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
6	2 (書く2)	せんせい、あのね	■話し言葉がそのまま文になることを知り、先生に話しかけるかたちの簡単な文章を書くとともに、敬体の文章に慣れるようにする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒知技(1)キ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■身近なことを経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆生活科・特別活動：敬体や方言を使ったり、書いたりした文を見直ししながら、相手にわかりやすいように書いて知らせる。 ☆道徳：友達が書いたもののよいところを見つける。	1 2 3	1. 挿絵をもとに見通しをもち、伝えたいことを文に書くことを知る。 (1) 身近なできごとから、伝えたいことを見つけ、簡単な文に書くことを知る。 (2) P52 の文例を読む。 (3) 文例を参考に、知らせたいことで、思いついたことを発表する。 2. 伝えたいことを書く。 (1) 伝えたいことを話し言葉で文に書く。「せんせい、あのね」の書きだして書いてみる。 (2) 書き終わったら、声に出して読み返し、直すところがあれば直す。 (3) 書き終わった人どうして、交換して読む。 3. 「○○は、～へ □□しました。」の文例を読み、ノートに視写しながら敬体の文章になれる。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】進んで主語と述語との関係に気付こうとし、学習の見通しをもって簡単な文章を書くようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
6	4 (話す聞く 4)	みんなに はなそう	◇身近なことや経験したことから話題を決め、必要なことを思い出して、順序を考えて話す。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 →知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 →知技(1)キ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 →◎思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 →思判表A(1)イ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 →思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 →思判表A(2)ア	1 2・3 4	1. 挿絵を見て、学習のねらいや方法を知る。身近なことや経験したことの中から、どんなことを話すか、話題を考える。 2. 話したいことを絵に描き、それをもとに二文程度の文を作り、話の準備をする。 3. グループで発表し、感想やよいところを伝える。	◎【知識・技能】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使っている。(〔知識及び技能〕(1)キ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア) 【態度】積極的に丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付け、今までの学習を生かして身近なことを話そうとしている。
6	1	たのしく よもう 2 がぎぐげごの うた	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 →知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 →◎知技(1)ク	1	1. 言葉の意味を考えながら、『がぎぐげごの うた』をリズムよく楽しく音読する。さまざまな形態で何度も音読する。 2. 『がぎぐげごの うた』を視写する。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) 【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。
6	3 (書く3)	よく みて かこう	■身近なものを観察し、気づいたことを簡単な絵や文で表し、書いたものを読み合って感想を伝え合う。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →◎知技(1)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 →◎思判表B(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 →思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 →思判表B(2)ア ☆生活科：観察カードを書く学習に生かすことができる。	1 2 3	1. 身近で育てている植物などをよく見て、絵と文に書くことを知る。 (1) 実際に観察し、特徴や小さな変化に気づく。 (2) 全体の様子や気づいたこと、さわった感じや自分の思いなどをカードに書く。 2. 絵に色をぬったり、文を読み返してまちがいを直したりして、観察カードを完成させる。 3. お互いに書いたものを読み合う。 ・「いいな」と思ったことを書いた人に伝える。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きを伝える働きがあることに気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
6	6	すずめの くらし	□問いの文や写真に導かれながら、すずめについて説明した文章を読む。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。⇒知技(3)エ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。⇒思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。⇒思判表C(2)ア	1	1. 題名や写真から、すずめについての興味を高めるとともに、学習への意欲をもつ。 2. すずめについて知っていることを話し合う。 (1) 題名の中の言葉「すずめ」「すずめのくらし」をもとに話し合う。 (2) 教科書の写真を手がかりにしながら、自分がすずめについて知っていることを話し合う。 2～4 3. 文章のまとまりごとに、写真や問いの文を手がかりにしながら、『すずめのくらし』を読む。 (1) 写真からわかることを話し合う。 (2) 写真からわかったことを手がかりに、問いの文「なにをしているのでしょうか。」の答えを予想する。 (3) 答えの文を読み、写真とも結びつけて、文章の中の大事な言葉に着目して、内容を確認する。 5 (4) 文章を読み返して、わかったことを確認したり、はっきりした発音で音読したりする。 6 4. 鳥もしくは動物について書いた絵本や図鑑を読み、初めて知ったことや不思議に思ったことを紹介し合う。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及を読み、書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことや思ったことを紹介しようとしている。 【態度】積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことや思ったことを紹介しようとしている。
	2	しゃ、しゅ、しょ	△拗音や拗長音に注意して、身のまわりから言葉を見つけ、正しく読んだり書いたりする。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ	7	5. 清音と拗音との違いに気をつけて、拗音や拗長音の言葉を正しく音読する。 (1) 教師の範読を聞いたあと、音読する。各自で読む、斉読する、縦や横の列ごとに読むなど、変化をつけて楽しく読むようにする。 (2) 「しゃしん」「あくしゅ」「しよつき」をノートに視写する。 8 6. 拗音や拗長音を含む言葉を視写したり、言葉を集めたりする。 (例) きょうしつ おちゃ ひょうし など (1) 「びょういん」と「びょういん」の違いに気づき、正しく視写する。 (2) P67の詩を音読し、ノートに視写する。 (3) 拗音の入った言葉を集め、ノートに書く。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に拗音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。 ・・・
6	1	たのしく よもう 3 きやきゅきよの うた	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク	1	1. 言葉の意味を考えながら、『きやきゅきよのうた』をリズムよく楽しく音読する。さまざまな形態で何度も音読する。 2. 『きやきゅきよの うた』を視写する。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
6～7	12 (書<12)	しらせたい ことを かこう	■身近なできごとや経験から知らせたいことを選び、簡単な文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表◎B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆生活科・特別活動：敬体や方言を使ったり、書いたりした文を見直ししながら、相手にわかりやすいように書いて知らせる。 ☆道徳：友達が書いたもののよいところを見つける。	1	1. 挿絵をもとに単元の見通しをもち、伝えたいことを文に書くことを知る。 (1) 身近なできごとから、伝えたいことを見つけ、簡単な文に書くことを知る。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】積極的に長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。
				2	2. 伝えたいことを決める。 (1) 前時で話し合ったことを参考に、何を書くか、誰に伝えるかを考える。 (2) 隣どうしで、何を誰に伝えたいか話す。 (3) 全体にも紹介する。	
				3	3. 敬体で文を書くことを知る。 (1) P71の文例を読み、「〇〇は、～ました。」のような敬体で書くことを知る。 (2) いろいろな言い方を敬体に直す練習をする。	
				4～8	4. 伝えたい相手を決めて文章を書く。 (1) 伝えたい相手を考えながら二文程度の文を書く。 (2) 題名を決める。	
				9～11	5. 読み返し、交流する。 (1) 書いた文を自分で読み返し、まちがいを直す。句読点や文字のまちがいに注意する。 (2) 書き終わった人どうしで読み合って、よかったところを伝える。	
				12	6. 読んだ作品のよいところを伝え合い、自分のよさに気づく。	
	1	は、を、へ	△助詞の表記と語中の表記とを区別して理解する。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒知技(1)カ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ ☆生活科：見つけたことや気づいたことを、文章に書く。	13	7. P72～73の提示文を読んで、助詞の「は」「を」「へ」の読み方と書き方を確かにする。 (1) 「は・を・へ」の例示された文を音読し、ノートに視写する。 (2) P72のありさんの詩を音読し、「は・を・へ」の読み方を確かにする。 8. 助詞の「は」「を」「へ」を使って文を作る。 (1) 全体で話し合って例をあげ、書き方を確認する。 (2) 各自、ノートに文を書く。	◎【知識・技能】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）
7	2	としょかんへ いこう	△図書館の基本的な利用方法を知り、興味のある本を探したり、紹介し合ったりする。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。⇒知技(3)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。⇒◎知技(3)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	1	1. 図書館のはたらきや利用の仕方について知る。 (1) 図書館の利用経験を発表する。 (2) 実際に学校図書館へ行って本を読んだり、借りたりする。	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ） 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を紹介しようとしている。
				2	2. 読んだ本の中から気に入った本を一冊選び、紹介し合う。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
9	5 (話す聞く 5)	なつの おもいでを はなそう	◇相手の話の内容を受けて話したり、自分から話すんで話したりする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒◎思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒◎思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア ☆生活科：身近な自然や生活経験に興味をもつ。 ☆道徳：自分の生活について話したり、友達的生活について聞いたりして、自分について振り返る。	1	1. P94の挿絵をもとに、学習の見通しをもつ。 (1) 主な学習のねらいを知る。 *夏休みのできごとを話題にすること *実物を持ってきたり、絵や写真を持って話すこと *グループで話し合い、聞く人も質問や感想を言うこと (2) 挿絵はどんなことを表しているのか話し合う。 (3) 自分たちの夏休みのできごとを発表し合う。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア）
				2・3	2. 発表の準備をする。 (1) P95の挿絵をもとに、どんな発表をするのか話し合う。 (2) 発表原稿を書く。 (3) 発表に必要なものを用意する。 *思い出の品 *写真、絵 など (4) 発表の練習をする。	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ）
				4・5	3. 「夏の思い出発表会」をする。 (1) 話すとき、聞くときのきまりを確認する。 (2) グループ全員が話したら、他のグループと入れ替わって、話をする。 (3) 質問や感想を言う。	【態度】積極的に話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、学習の見通しをもって質問や感想を言おうとしている。
2		かたかなのことは	△身のまわりの片仮名で書く言葉や表記を理解し、正しく書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ ☆生活科：身のまわりの自然や食べ物、道具に興味をもつ。	6	4. 片仮名で書く言葉を見つけ、簡単な片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） (1) P96の挿絵から片仮名で書く言葉を見つけて発表する。 (2) P96下段の例示を読み、書き順や形に気をつけてなぞったり、ノートに練習したりする。	◎【知識・技能】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）
				7	5. 片仮名の文字や言葉を読んだり、書いたりして、練習する。 ○P97に示された語句を、声に出して読んだりなぞったりする。 ○ノートに、書き順や形に気をつけて練習する。	【態度】積極的に片仮名で書く語の種類を知り、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
9	6	けんかした 山	□場面の様子を想像しながら、お話を読む楽しさを味わう。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：けんかした経験を出し合ったり、登場人物の気持ちを想像したりして、相手の気持ちになる。	1 2～5 6	1. 題名や挿絵をもとに、学習のねらいをつかむ。 (1) 山の様子や言葉から、場面を想像して、お話を楽しむ。 (2) 挿絵を見ながら教師の範読を聞き、あらすじをつかんだり、簡単な感想をもったりする。 2. 山のしたことをもとに場面の様子を想像する。 *いつもけんかをしている二つの山 *どっと火を噴き出す山 *雨でしょんぼり顔を見合わせる山 *何年も何年も経ち、緑につつまれる山 3. 物語で一番いいと思ったところ（心に残ったところ）を見つけ、なぜそこがよかったのか考えて発表したりノートに書いたりする。 ・お話をもう一度読んで、すっかり緑につつまれた山に、言ってあげたいことを考えて書く。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって考えたことを発表したり文章にまとめたりしようとしている。
2		(みんなで たのしく よみましょう。)	□役割を決めてグループで音読する。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒◎思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	7 8	4. 音読発表会の準備をする。 (1) どんな会にするか、誰を招待するか話し合う。 (2) 登場人物を確認し、グループで役割を決めて音読の練習をする。 5. 音読発表会をする。 (1) 発表会のときに気をつけることを確認する。 *発表者として *聞き手として *招待したかたがたに対して (2) 発表会をする。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ） 【態度】進んで文章を読んで感じたことを共有し、学習の見通しをもって役割を決めて音読しようとしている。
3		かん字の はじまり	△漢字には、絵からできたものとしるしからできたものがあることを理解する。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ	9 10 11	6. 漢字の成り立ちに関心をもち、「山」「月」「木」の漢字を、正しく読んだり書いたりする。 7. 「上」「下」の漢字を、正しく読んだり書いたりする。 8. P107の upper 段に示された漢字が、どの絵と対応するか確かめ、漢字の由来を理解する。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】進んで当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
9	7	だれが、たべたのでしょう	□問いの文と答えの文や写真と文の対応に気をつけながら、動物の食べ跡について説明した文章を読む。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。→知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。→◎知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。→◎知技(1)ク □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。→◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。→思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。→思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。→思判表C(1)カ □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。→思判表C(2)ア	1	1. 題名を読んで、「誰が」「何を」食べたのかを考えるなどして学習への意欲をもつ。 2. 題名と9枚の写真を手がかりに、この文章が説明していることの大体をつかむ。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア） 【態度】積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことや思ったことを話そうとしている。
				2～4	3. 問いと答えの文や写真との対応に気をつけながら、食べ跡と食べた動物やその食べ方を読む。	
				5	4. 写真の食べ跡の特徴を話し合ったり、食べ方を想像したりして、動物の暮らしについて話し合う。	
				6・7	5. 動物について知っていることや絵本・図鑑などで調べたことを、問いと答えからなる簡単な文章で書き、紹介し合う。	
9～10	13 (書く13)	たのしかったことをかこう	■日常生活の中から書くことを見つけ、簡単な文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。→◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。→◎思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。→◎思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。→思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。→思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。→思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。→思判表B(2)ア ☆生活科：見つけたことやおもしろかったことなどをメモしておく。 ☆道徳：友達や自分のよいところを見つける。	1	1. 学習の見通しをもつ。 (1) P116・117の挿絵や本文から、心に残ったできごとを思い出し、文章を書くことを知る。 (2) 学校や家でのできごとで、楽しかったことやがんばったことなどを発表する。 (3) P117の「ここが だいじ」を読んで、文を書くのに、どんなことを思い出したらよいか気づく。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） 【態度】進んで経験したことから書くことを見付け、学習の見通しをもって文章を書くようとしている。
				2	2. 文の書き方を知る。 (1) P117の「ここが だいじ」を確かめる。 (2) 文を書いたら、友達と読み合うことを知る。	
				3	(3) P118・119の例を読み、どんな文を書くのかイメージをもつ。 (4) 「」の使い方や題名、名前の書き方などを確認する。 (5) 「ここが だいじ」が例示の文章にどう生かされているか、確認する。	
				4	3. 文章を書く。（話題設定・構成） (1) 文章に書く内容を決める。 (2) 書く題材が決まったら、書きたいことを思い出してメモやカードなどに書く。	
				6～10	4. 文章を書く。（記述・推敲） (1) メモやカードを並べて、書く順番を決める。 (2) 原稿用紙の書き方を知る。 *題名 *名前 *書き始めの一字下げ *会話の「」 *読点の打ち方 など (3) メモをもとに文章を書く。分量のめやすは、本文だけで100字程度。 (4) 書いたら読み返す。まちがいがあれば直す。	
				11～13	5. 書いた文章を交流する。 (1) 書いた文章を読み合う。 (2) 友達のよいところを見つけて伝え合う。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
10	2	かぞえうた	△数え歌をもとにして、漢字を使った数の読み方に慣れるようにする。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。⇒◎知技(3)イ ☆音楽科：手拍子などで拍子を取りながらリズムよく読む。	1 2	1. 言葉の意味を考えながら、リズムよく音読する。 2. 絵と言葉をもとに、数え方を確認する。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【態度】進んで言葉遊びに親しみ、学習の見通しをもってリズムよく音読しようとしている。
	3	かぞえよう	△一から十までの漢数字を正しく読み、書く。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ ☆算数科：正しい読み方で十までの数を数える。個数や順番を正しく数えたり表したりする。	3 4 5	3. 数を表す漢字を声に出して読んだり書いたりすることを知る。新出漢数字を書き順に気をつけて正しく書く。 4. P122・123を見て、一から十までの漢数字を声に出して読む。挿絵を見ながら、助数詞をつけて漢数字を声に出して読む。 5. 漢数字を使って短い文をつくり、ノートに書いて発表し合う。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】進んで漢字を読み、学習の見通しをもって文や文章の中で使おうとしている。

第1学年 国語科 年間指導計画・評価計画

△知技 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
10	2	しを よもう あめの うた	□イメージの広がりや音読をとおして、詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 →◎知技(1)ク □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 →◎思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ	1・2	1. 詩を楽しく読むことを知る。 (1) 声に出して読む。 (2) 様子を思い浮かべながら音読する。 (3) 好きなところを発表し合う。 (4) お互いの音読を聞き合い、よかったことを伝える。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。
10	6 (書く6)	見つけたよ、いきもの ひみつ	■生き物と触れ合ったことや見聞きしたことを思い出して書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 →◎思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 →思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)ウ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 →思判表B(2)ア ☆生活科：観察カードを書く活動などに生かすことができる。		○学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう(重点) 1. 生き物と触れ合ったことや見聞きしたことから、伝えたい生き物を決める。 組み立てよう 2. よく思い出して、メモに書く。 書こう 3. メモに書いたことから、伝えたいことを選び、書く。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】積極的に経験したことから書くことを見付け、学習の見通しをもって文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
10 ～ 11	15 (書<10)	一 かかれて いる ことを たしかめよう	□■自動車の「やくわり」と「つくり」に気をつけて読み、乗り物のことを紹介する文章を書く。			
10	5	はたらく じどう車	□「やくわり」と「つくり」に気をつけて、はたらく自動車について説明した文章を読む。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →◎知技(1)オ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 →知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 →知技(1)キ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 →知技(1)ク △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 →知技(2)ア □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 →◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 →◎思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →思判表C(1)カ □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 →思判表C(2)ア	1	○単元について話し合い学習の計画を立てる。 確かめよう 1. 書かれていることの大体をつかむ。 出てくる自動車の名前やその自動車のことで知っていること、もっと知りたいことを発表し合う。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ）
				2～5	考えよう 2. 「はたらくじどう車」の特徴をノートにまとめる。 (1) それぞれどんな「やくわり」があるか。 (2) 「やくわり」に合わせた「つくり」はどんなか。 それ以外の乗り物はどうか、興味を高めておく。 深めよう 3. それぞれの自動車の「やくわり」と「つくり」のつながりを説明する。 (1) ノートにまとめたことをもとに、自分が好きな働く自動車の「やくわり」と「つくり」について、友達に説明する。 (2) 説明を聞いて、面白いと思ったこと・不思議に思ったことなどを伝える。 ○学習を振り返る。	【態度】進んで時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことを説明しようとしている。
10 ～ 11	10 (書<10)	「のりものカード」で しらせよう	■乗り物について、カードを用いて順序にそって簡単な構成の説明の文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 →思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 →◎思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 →思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 →思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 →思判表B(2)ア ☆生活科など：読み上げてまちがいを見つける方法は、生活科などでも応用できる。	1・2	○「学習の進め方」を読んで、見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. いろいろな乗り物の中から、知らせたい乗り物を決める。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ）
				3・4	組み立てよう（重点） 2. 「やくわり」と「つくり」をメモに書く。 (1) 図鑑などの資料を読み、役割とつくりを調べる。 (2) 乗り物名、役割、つくりを短くメモに書く。 (3) 「ですから」を使って役割とつくりの関係をつなぐ。 (4) メモを友達と紹介し合う。	
				5～7	書こう 3. メモをもとに「のりものカード」を書く。	
				8	読み返そう 4. 「のりものカード」を声に出して読む。	
				9・10	伝え合おう 5. 友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
11	5 (話す聞く 5)	えを 見て おはなししよう	◇絵を見て話題を見つけ、友達と話したり、友達の話を受けて答えたりする。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 →知技(1)イ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。 →◎知技(1)オ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 →◎思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 →思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 →思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 →思判表A(1)エ ◇互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 →思判表A(1)オ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 →思判表A(2)イ	1 2・3 4・5	○教材名を読んで学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう（重点） 1. みんなで話し合って、それぞれのうさぎに名前をつける。 ・提示された絵を見て、場面の設定や状況をつかみ、話題を見つけて対話する。 2. 好きなうさぎになって、自己紹介をし合う。 ・話題にしたいことを選んでカードに書く。 3. それぞれのうさぎの言葉を考えて話す。 ・二人組みを作り、カードをもとに対話する。 ○学習を振り返り、感想を書いたり伝え合ったりする。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っていると同時に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア） 【態度】進んで話題を決め、学習課題に沿って少人数で話し合おうとしている。
11	2	かん字の ひろば ① 日づけと よう日	△日付と曜日を表す漢字を正しく読む。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。 →知技(1)オ	1 2	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 今日は、何月何日かを確かめ、日づけの読み方を考える。 2. カレンダーから曜日の漢字を集め、読み方について話し合う。 3. 日づけや曜日の読み方に慣れる。 4. 「日づけのうた」と「よう日のうた」を楽しく唱える。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に漢字を読み、学習課題に沿って音読しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
11	16(書く10)	二 しやしんと 文から、だ れが なにを したかを た しかめよう	□■写真と文から誰が何をしたかを読み、写真から言葉を想像してお話を書く。			
11	10 (書く4)	うみへの ながい たび	□白くまの様子を考えながら声に出して読み、写真と文から、誰が何をしたかを確かめる。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：D生命の尊さ 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	1 2・3 4～6 7 8～10	○単元とびらを読み、写真と文から誰が何をしたかを確かめながら、『うみへの ながい たび』を読むことを確認する。 確かめよう 1. 「ながいたび」は、どのようなたびなのか考えながら読む。 (1) 何枚の写真があるか確認する。 (2) それぞれの写真で、誰が何をしているところかを話し合う。 考えよう 2. できごとの「じゅんじょ」を確かめながら読み、場面ごとの登場人物の様子を具体的に想像する。 (1) P33の写真と、P55の写真を比べて違いを見付ける。 (2) かあさんぐまが、白くまの兄弟を産んでから、P35の写真のように育つまでにどのくらいの時間が経っているのか確認する。 ※時を表す言葉を見つけて、ノートに書きながら、話の「順序」を確認する。 深めよう 3. いちばん好きな写真を選んで、友達に紹介する。 広げよう 4. かあさんぐまやぐまになったつもりで、言葉を考え、発表する。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(【知識及び技能】(1)ク) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(【思考力、判断力、表現力等】Bア) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(【思考力、判断力、表現力等】Cイ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ) 【態度】進んで場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えた言葉を発表しようとしている。
11	6 (書く6)	きこえて きたよ、こんなことば	■写真をもとに、ふきだしの中の言葉を考えて、お話を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	11 12・13 14・15 16	○P52～55を読み、学習活動を理解して見通しをもつ。 決めよう・集めよう（重点） 5. 写真を見て、気づいたことを出し合ったり、想像したことを話したりする。 組み立てよう 6. 写真を見て、心に浮かんだ言葉や想像した言葉をふきだしに書く。 （組み立てを考えて）書こう・読み返そう 7. 8ふきだしをもとに、お話を考え、読み返す。 伝え合おう 9. 友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)ウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(【思考力、判断力、表現力等】Bア) 【態度】進んで想像したことから書くことを見付け、今までの学習を生かして簡単なお話を書くとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
11	3	天に のぼった おけやさん	△古くから伝わっている話を、興味をもって聞き、好きなところを音読する。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 →知技(1)カ △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 →◎知技(3)ア □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 →思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ ☆生活科：地域に伝わる昔話や神話・伝承などを調べ、興味をもつ。 ☆道徳：C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	1	1. 昔話について、簡単に知る。 2. 絵を見て、順序を考えながら、教師の音読を聞く。 3. 絵を手がかりにお話の順序を確かめる。 4. おもしろかったところを発表する。	◎【知識・技能】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア） 【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） 【態度】進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、学習の見通しをもっておもしろかったところを発表しようとしている。
11	2	かたかな	△片仮名の書き方や使い方に慣れ、正しく使う。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 1. P58を参考に、片仮名で書く言葉を発表したり、自分でも仲間ごとに言葉を集め、ノートに書いたりする。 2. まちがえやすい字形の片仮名を、書き順や形に気をつけて書く練習をする。 3. 片仮名の濁音と半濁音、長音や拗音の言葉を読んだり書いたりする。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に片仮名を読み、見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
12	2	かん字の ひろば ② かん字の よみかた	△漢字には、使い方によって読み方が変わるものがあることを理解する。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 →知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「山のぼり」「ふじ山」を声に出して読み、「山」の読み方の違いを考える。 2. 「日」に、いろいろな読み方があることを理解する。 3. 「山」「日」を使った言葉を集め、それぞれにどんな読み方があるかを確かめ、話し合う。 4. P61の設定問を考え、それぞれの漢字の読み方を確かめるとともに、他にも読み方がいくつかある漢字を探し出す。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】進んで漢字を読み、今までの学習を生かして使い方によって複数の読み方がある漢字を知ろうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
12	4 (書く4)	こころ ぽかぽか 手がみを かこう	■相手を決めて、気持ちが伝わるように手紙を書く。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒ ◎知技(1)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表◎B(1)エ ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ	1	○学習の進め方を理解し、見通しをもつ。手紙を書くことに興味をもつ。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ） 【態度】粘り強く文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正し、学習の見通しをもつて手紙を書こうとしている。
				2	決めよう・集めよう 1. 伝えたいことや、相手を決める。	
				3	書こう・読み返そう 2. 手紙を書いて、読み返す。	
				4	伝え合おう 3. 手紙を渡す。 ○学習を振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
12	10	三 ばめんの ようすを く らべて よもう	□人物の動きや場面の様子の楽しさを読み、読書の世界を広げる。			
12	5	スイミー	□どのようなお話が考えながら読み、おもしろかったところを紹介する。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。 →知技(1)オ △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 →◎知技(3)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 →思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 →◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 →思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ ☆道徳：D生命の尊さ 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	1 2・3 4 5	○単元とびらを読み、場面の様子を比べながら『スイミー』を読むことを確認する。 確かめよう 1. スイミーにどんなできごとがあったのか、考えながら読む。 (1) お話しに、誰が出てきたか、出てきた順番に確かめる。 (2) 心に残ったことを話し合う。 考えよう 2. スイミーは、始めと終わりでどのように変わったか話し合う。 深めよう 3. スイミーはどうして変わったのか、場面の様子に気をつけながら読み、訳を考える。 広げよう 4. 好きな場面を選んで、スイミーになったつもりで、言葉を考える。	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(【知識及び技能】(3)エ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ) 【態度】進んで場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って考えた言葉を発表しようとしている。
12	5	「おはなしどうぶつえん」をつくって、本を しょうかいしよう	□動物の出てくる本を読んで、友達に紹介する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 →◎知技(1)ア □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 →◎思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ □学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。 →思判表C(2)ウ	6 7・8 9・10	○「おはなしどうぶつえん」を作り、動物の出てくるお話を紹介するという学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。 1. 動物の出てくる本を探して、読む。 2. 紹介カードを書き、動物ごとに貼り、「おはなしどうぶつえん」を作る。 「おはなしどうぶつえん」を開き、本の紹介をする。 (1) 好きな場面や心に残ったことを発表し合う。 (2) 紹介された本を読み、「おきゃくさまカード」を貼る。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(【知識及び技能】(1)ア) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(【思考力、判断力、表現力等】Cカ) 【態度】積極的に文章を読んで感じたことや分かったことを共有し、今までの学習を生かして「おはなしどうぶつえん」を作り、本を紹介しようとしている。
1	1	しを たのしもう ゆき	△イメージの広がりや音読をとおして、詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。 →知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 →◎知技(1)ク □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 →◎思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 →思判表C(2)イ	1	1. 声に出して読み、言葉のリズムを味わう。 2. いろいろな雪と冬の季節の変化について考える。 3. 様子を想像して読む。 きゅっきゅとなく のしのしふる ずんずんつもる など 4. 最後の一行にどんな気持ちがかもっているかを考えながら読み、詩を楽しむ。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(【知識及び技能】(1)ク) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ) 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
1	14 (書<5)	四 ぶんしょうと えを あ わけて よもう	□文章と絵の対応に気をつけながら読み、いろいろな身振りが表すことを説明する文章を書く。			
		みぶりで つたえる	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判表C(2)ア ☆総合的な学習の時間・生活科など：日常生活の中で使う身振りについて振り返り、気持ちを相手に伝える際に役立てる。	1 2 3～5 6・7 8～12 13・14	○単元名やリード文から学習の見通しをもつ。 身振りや手振りのことで知っていることや、本文の中に書かれているものの中で、自分が行ったことのあるジェスチャーについての話をする。 確かめよう 1. 書かれていることの大体を確かめる。 (1) 挿絵に番号をつける。 (2) どの文がどの絵のことを説明しているのか、確かめる。 考えよう 2. 文章と絵から話していることを想像する。 (1) P95までの絵にふきだしをつけて、どんなことを伝えようとしているかを書く。 (2) 書いたことを友達と読み合う。 深めよう 3. 日常生活の中にある身振り手振りについて考える。 ・日常生活の中で、どんな気持ちの時にどんな身振りをしているか、経験を話し合う。 広げよう 4. 身振りについて考え、説明する文章を書く。 (1) 日常生活の中にある身振り手振りを説明する文章を、絵を交えて書く。 (2) 友達と、書いたものを読み合う。 5. 言葉のはたらきと身振りのはたらきを比べて、考えたことを話し合う。 ○学習を振り返る	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(【知識及び技能】(1)ア) 【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(【思考力、判断力、表現力等】Cオ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(【思考力、判断力、表現力等】Cカ) 【態度】積極的に文章の内容と自分の体験とを結びつけて、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。
1	1	文を つくろう	△主語と述語の関係に気をつけながら、いろいろな文を作る。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア	1	○冒頭の会話文を通して、文作りに対して主語と述語の対応が重要だということを知る。 1. P102に描かれた事柄を、「だれ(なに)がどうしています」の文型に当てはめながら文を作り、発表する。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(【知識及び技能】(1)カ) 【態度】進んで文の中における主語と述語との関係に気付こうとし、学習課題に沿って簡単な文を作ろうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
1	2	かん字の ひろば ③ かわる よみかた	△使い方によって漢字の読み方が変わるものがあることを理解する。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. P104上段の文を声に出して読み、「一台」と「一軒」の読み方を比べ違いを考える。 2. P105上段の設問を考え、それぞれの言葉の読み方を確かめ、話し合う。 2 3. P105下段の設問を考え、それぞれの言葉の読み方を確かめ、それらの言葉を使って短い文を作り、発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】進んで漢字を読み、今までの学習を生かして使い方によって読み方が変わる漢字を知ろうとしている。

[illegible]

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
2	8 (書く8)	六 つたえたい ことを おもい出して かこう	■経験したことや見たことを思い出し、わかりやすい文章を書く。			
		おもい出の アルバム	△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒◎思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒◎思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	1 2・3 4～6 7・8	○「学習の進め方」を読み、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 伝える相手を決め、伝えたいことを一つ選ぶ。 組み立てよう 2. 思い出したことを、メモに書く。 書こう・読み返そう(重点) 3・4. メモをもとに文章を書き、読み返す。 伝え合おう(重点) 5. 文章を読み合う。 (1) 友達同士で読み合う。 (2) 伝えたい相手に読んでもらう。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 (【知識及び技能】(1)ウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。 (【思考力、判断力、表現力等】Bエ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。 (【思考力、判断力、表現力等】Bオ) 【態度】積極的に文章に対する感想を伝え合い、学習の見通しをもってよいところを伝え合おうとしている。
2	3	かん字の ひろば ④ にて いる かん字	△形の似た漢字を正しく読んだり、書いたりする。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア	1 2 3	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「人」と「入」の形の似ているところ、違うところを考える。 2. 「木」と「水」、「字」と「学」、「右」と「石」の似ているところと違うところを話し合い、字形に気をつけて、正しく書く。 3. 字形の一部に同じ部分が含まれている漢字があることに気づき、仲間集めをする。 4. 「十」と「七」、「力」と「九」、「上」と「土」、「山」と「出」、「本」と「文」、「月」と「目」の似ているところと違うところを確かめ、字形に気をつけて、正しく書く。 5. 漢字の足し算・引き算の問題に取り組む。 6. 「もののかたちからできたかん字」の問題に取り組む。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 (【知識及び技能】(1)エ) 【態度】積極的に漢字を読み、学習課題に沿って形の似た漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
2	1	しりとりで あそぼう	△二音節単位でつなげていく「しりとり遊び」のあることを知り、実際に活動してみる。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	1	1. 単語の語尾の一文字を次の単語の語頭にすえて遊ぶ「しりとり遊び」のルールを確認する。 2. 絵を見ながらしりとり言葉を確認、それぞれ何の仲間かを発表し合う。 3. 何の仲間ですりとりをするかを決め、グループですりとりをたのしむ。	◎【知識・技能】音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)イ） 【態度】進んで音節と文字との関係に気付こうとし、今までの学習を生かしてしりとりを楽しもうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
2～3	15 (書く5)	七 ようすを おもいうかべ ながら よもう	□様子を思い浮かべて読み、登場人物に手紙を書く。			
		お手がみ	△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒知技(1)ク ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：B友情、信頼 友達と仲よくし、助け合うこと。	1～6 		